

研究学園都市周辺，地質の見どころ (その4)

坂本 亨 (地質部)・正井 義郎 (総務部)
Toru SAKAMOTO Yoshiro MASAI

研究学園都市周辺とタイトルしながら またまた遠くなりますが 今回は水戸の北西の瓜連(うりづら)丘陵。研究学園都市から車で1時間半ばかりの処です。表紙写真の説明も参照して頂きたいのですが ここで紹介するのは 大宮町坂地の北の土とり場の大露頭。

この露頭では 久慈川の旧河谷を埋積した第四系 引込層の内容が 基底からほとんどトップまで 層厚約60mにわたって一望に納められます。礫・砂礫からはじまって上方へ泥質層に移行し さらに砂礫層→泥質層とくり返す堆積サイクルが

ここで約4回認められます。砂礫層基底の削り込み 砂層の堆積構造など 見る人が見れば一日中眺めても飽きることはないでしょう。泥質層のトップでは海の影響も認められ 河川から内湾へ海進に伴う河口付近での堆積状況や環境変化を検討するには興味あるところです。「海進に伴う河口付近での河谷埋積層」といえば 現在の「沖積層」のかなりがこれに該当します。人間の生活に関連した重要な場である「沖積層」の特性を理解する上でも この露頭はよい手がかりを与えてくれるでしょう。



写真1 土とり場中央部で 下から3番目のサイクルの砂礫層の基底が下位層を削り込んでいる。この削り込みの最大のところでは 上・下の砂礫層とも ラミナがいじらしく乱れている。

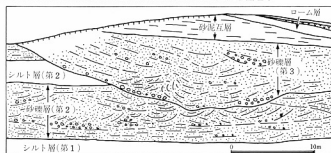




写真2・3 下から2番目のサイクルの砂礫層に見られる大規模なクロスラミナ。
写真2(上)は土とり場の東側面、写真3(下)は北側面。



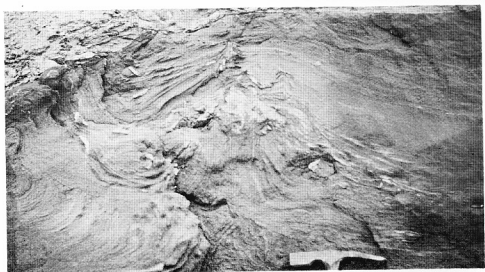
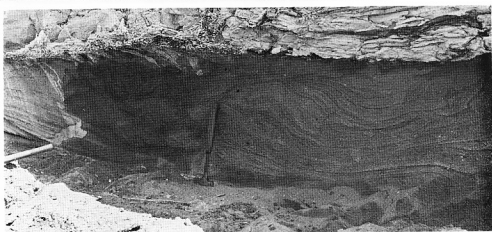


写真4・5・6 2番目のサイクルで 泥質層の直下の砂層に見られる複雑な堆積構造。

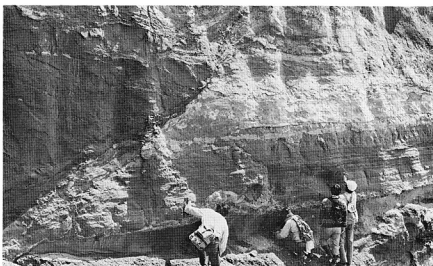
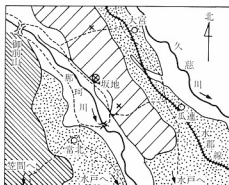


写真7 写真1の崖の裏側 3番目のサイクルが2番目のサイクルの泥質層を切るところ。



写真8
同上 3番目のサイクルの側部に発達するイブシロン型斜交層理。河川堆積物に特有の堆積構造といわれるもの。



⊙ 坂地の北の土とり場
× その他の大露頭

【参考文献】坂本・守野沢(1976):茨城県瓜連丘陵の第四系と久慈川・那珂川の河谷発達史。地調月報。27巻10号 1-10ページ。